第12課　聖霊によって生きる

【暗唱聖句】

「わたしが言いたいのは、こういうことです。霊の導きに従って歩みなさい。そうすれば、決して肉の欲望を満足させるようなことはありません」ガラテヤ5:16

【今週のテーマ】

私たちは霊と肉の二つの側面を持っており、それらは戦っています。どのようにしたら肉を殺し、霊に従って生きることができるのか、その秘訣を学びます。

【日曜日・聖霊の導きに従って歩む】

「わたしが言いたいのは、こういうことです。霊の導きに従って歩みなさい。そうすれば、決して肉の欲望を満足させるようなことはありません」ガラテヤ5:16

パウロは「歩む」という言葉を好んで使っています。これはクリスチャンとしてのどのようにふるまうかを表した比喩的表現ですが、初期のクリスチャンたちは「この道の者たち」と呼ばれていましたので、主と共にその道をどのように歩むべきかを教えているわけです。

旧約聖書でも「歩む」という表現が出てきます。ヘブライ語の「ハラハー」という言葉は、律法や様々な規定を指す法律用語で「ユダヤ法」と訳されますが、この言葉は「歩む」というヘブライ語から派生しており、ユダヤ法「ハラハー」は文字通り「歩むべき道」を意味していました。

　パウロは「霊の導きに従って歩みなさい」と言っています。それは律法を決して否定するわけではなく、律法の教えに矛盾するわけでもありませんが、神様が望まれる真の服従とは外部からの強制的な生き方ではなく、聖霊によって内側から生み出される導きによって実現するものなのだということです。

　そして、そのように生きるならば、「決して肉の欲望を満足させるようなことはありません」と続けます。肉の欲望や誘惑に打ち勝つことに困難を覚えない人はいないことでしょう。ここに、その欲望や誘惑打ち勝つことができる秘訣が書かれてあります。それは霊の導きに従って歩むことです。そこで私たちは霊の導きを日々祈り求めることが大切であることがわかります。それを第一としていくことを学ぶとき、真の生き方が見えてきます。

霊の導きは主の御心ですから、わたしたちの生き方と神様の御心とが徐々に一致するようになっていきます。ここに、わたしたちの日々の成長があります。

【月曜日・クリスチャンの闘い】

「肉の望むところは、霊に反し、霊の望むところは、肉に反するからです。肉と霊とが対立し合っているので、あなたがたは、自分のしたいと思うことができないのです」ガラテヤ5:17

わたしたちが聖霊によって生まれ変わることによって肉の性質との闘いが生じるようになります。神様を知らなかったときよりもその闘いは激しいものです。これは霊（神様）が望まれることと、肉（自我）が相反するからです。自分がしたいと思っている正しいことを、肉の思いが妨げてくるのです。

　わたしたちは自分の内側に二つの性質を持っていることを認めないわけにはいきません。わたしたちの霊的な部分は霊的なものを望み、肉的な部分を嫌悪しますが、肉的な部分が肉欲的なものを望み、霊的なものに敵対するのです。どのようにしたら、この霊的戦いに勝利することができるのでしょうか。パウロはその秘訣を私たちに教えています。それが「霊の導きに従って歩みなさい。そうすれば、決して肉の欲望を満足させるようなことはありません」（ガラテヤ5:16）ということでした。聖霊に導きを追い求める。聖霊の声に耳を傾ける。自分の心を聖霊に委ねる。聖霊の思いと自分の思いを一致させていく。すべては聖霊の働きですので、わたしたちができることはほとんどありませんが、ただ心を神様に向け、祈り求めることはわたしたちの意思です。その後はただ、ひたすらに委ねることです。

【火曜日・肉の働き】

「肉の業は明らかです。それは、姦淫、わいせつ、好色、偶像礼拝、魔術、敵意、争い、そねみ、怒り、利己心、不和、仲間争い、ねたみ、泥酔、酒宴、その他このたぐいのものです…」ガラテヤ5:19～21

「これに対して、霊の結ぶ実は愛であり、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、柔和、節制です。これらを禁じる掟はありません」ガラテヤ5:22，23

パウロは倫理的な悪徳と美徳を列挙し対比しています。他の聖書箇所にも似たような悪徳や美徳が列挙されている例を見ることができますが、パウロのリストには2つの特徴があります。

一つ目に、悪徳と美徳にそれぞれのレッテルを貼っていることです。すなわち、悪徳のリストには「肉の業」、美徳のリストには「霊の結ぶ実」というレッテルを貼って区別しています。

「肉の業」………　肉は要求する。自己中心。人間的業。

「霊の結ぶ実」…　霊は生み出す。他者中心。神の業

二つ目に悪徳のリストは複数形に書かれているのに対して、霊の結ぶ実は単数形で書かれてあることです。これは興味深い違いです。なぜ、複数形と単数形に分けているのでしょうか。これは肉の生きる人生が、分裂、混乱、不和、不一致を助長するばかりであるのに対して、霊に生きる人生は、心に迷いがなく平安であり、自分の心も、他者との関係においても一致をもたらすということ、そして霊の実は一つの同じ霊から生まれたものであることを現しているのでしょう。

【水曜日・聖霊の結ぶ実】

「これに対して、霊の結ぶ実は愛であり、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、柔和、節制です。これらを禁じる掟はありません」ガラテヤ5:22，23

ここに9つの霊の結ぶ実が列挙されています。9つの霊が結ぶ実にうち、愛が最初に来ているのは、愛が最も重要だからということよりも、愛がすべての美徳の鍵となっているからです。9つの霊の実の多くは他者と神様との間に生じる愛なのです。また、「これらを禁じる掟はない」と続くことから、愛と律法は矛盾しないものであることもわかります。

　では、どのようにしたらこれらの霊の実を結ぶことができるのでしょうか。イエス様はこういわれています。

「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。わたしを離れては、あなたがたは何もできないからである」ヨハネ15:5

イエス様につながっていることによって霊を実を豊かに結ぶことができます。これ以外の方法はありません。つながっているという言葉は、宿るという意味の言葉です。イエス様の中に宿るようにいつも一緒にいることです。イエス様と一つとなることは、クリスチャンが究極に目指すべき姿であり、そのとき自然の実が実り始めます。実が実らないほうが無理なのです。

【木曜日・勝利への道】

ガラテヤ5:16～26にかけて5つの動詞が出てきます。それは「歩む」「導かれる」「生きる」「前進する」「十字架につける」です。これが勝利への道の秘訣です。

　「歩む」とは、「従う」とか「歩き回る」という意味がある言葉です。つまり、キリストに従ってどこまで歩いていくということです。「導かれる」は、わたしたちの歩みに対して、どこに向かって歩むべきなのか、聖霊に導きを求める必要があることを教えています。「生きる」とは、単に生きるのではなく、新しく生まれ変わって生きるということが強調されています。「前進する」は。聖霊に導きに従って立ち止まらず前進していくことの大切さを教えています。また、「歩む」という言葉とはニュアンスが異なり、軍隊用語で隊列を組み、足並みを揃えて歩くという意味があります。聖霊と一致した歩みが強調されているのでしょう。「十字架につける」は、キリストに従って歩むとは、自分を十字架につける、つまり肉の欲望を滅ぼすことを意味しています。